

赤こんりポート

渥美 勉リポーター

旧市街地の歴史を大切に
自分たちの世代にできることを

旧市街地はこの10年で、オシャレなカフェや高級なレストラン、宿泊施設がぞくぞくとオープンしています。平成24年にオープンした仲屋町中にある「まちや倶楽部」オーナーの宮村利典さんは、そんな地域を盛り上げてきたうちの1人。「古い街並みや八幡堀は、県外から訪れた人にとっても魅力的です。先人たちが大切に積み重ねてきたものがあるからこそですので、そういった歴史や背景も伝えていきたいと思っています」と語る宮村さん。「若い世代にも旧市街地を活用してほしい」という思いから、歴史を大切にしながらも、現代的なカフェや宿泊施設を展開しています。普段、あまり旧市街地に足を運ぶ機会がない人も、散策してみたいはかがでしょうか。

赤こんりポート

東 恵子リポーター



あったかコミュニケーション

市内で唯一の銭湯「いこい湯」は、八幡町自治会が行政から指定管理者に選定され運営しています。取り仕切るのは、自治会長の峠岡明吉さんです。いこい湯には、1日90人以上のお客さんが来るそうで、ほとんどが顔なじみ。いつも来る人が何日も来ない時は、防災会と福祉協力が自宅を訪ね、安否を確認するそうです。防災会団長も峠岡さんで、協力員も常連さんのため、強い絆を感じます。

フェイスブックなどSNSでも情報発信しており、横浜や福井など遠方からの旅行者も訪れます。午後4時30分の営業開始前には行列ができるほど。地域の人たちの情報交換の場にもなっている、ホットな銭湯です。



赤こんりポート

松村 美沙枝リポーター

産前産後の子育てを応援
出張専門「和心助産院」

市内で助産師として活動中の、和心助産院の松本奈津美さん。自身の産後「思うようにうまくいかない」と葛藤した経験を生かし、新生児訪問や産後ケア、抱っこ講座など産前産後の悩みに寄り添っています。松本さんは、お産ができる場所や、昔から大切に伝えられてきた子育ての知恵、工夫の継承が最近途切れてきていることに危機感を感じているそう。「少子化解消のためにもまずは産む場所、そして安心して子育てができるよう、まち全体がいろんな形でサポートする環境を整えられたら」と話していました。

赤こんりポート

馬場 利男リポーター



小学生が「五色百人一首」に挑戦

新春の1月13日、小学生を対象に、青・黄・ピンク・緑・オレンジの五色に色分けされ、一試合20枚ずつの札で競う「五色百人一首」大会が、近江八幡市和装礼法こども教室実行委員会主催で行われました。同教室講師の白木久美さんやスタッフに、男子は袴姿、女子は着物姿に着付けてもらい、子どもたちは普段着なれない和服姿で競技に挑戦しました。低学年と高学年に分かれて、対戦相手を交代しながら繰り広げられた札の争奪戦。子どもたちは、読み上げられる上の句に耳をすまし、下の句の札を食い入るように見つめて真剣勝負に挑んでいました。決勝戦の結果、八幡小5年生の福井小都さんが優勝。福井さんは「たくさん取れて楽しかった」と話していました。優勝、準優勝、3位、4位には賞状とメダルが贈られました。

1月31日



夏に続き春も！バレーボールで全国へ

昨年8月の「第43回全日本バレーボール小学生大会」に出場して好成績を残した八幡JVBCは、11月の県大会でも優勝。今月28日から行われる「第21回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会」にも出場することが決定し、今年度2回目の全国大会への切符をつかみました。

同クラブは週3日、八幡小学校の体育館で一生懸命練習に励んでいます。この日は、サーブやアタックなど多彩なメニューをこなし、大会に向けて技術を磨いていました。八幡小6年生でキャプテンの明石歩暖さんは、「前大会よりも好成績が残せるよう頑張りたい。応援よろしくお願いします」と意気込みを話していました。

2月2日



師匠に感謝を伝える 楽しい「大根感謝祭」

桐原小学校の4年生らが企画・準備した大根感謝祭が桐原っ子ホールで開催され、「市民生ごみリサイクルプロジェクト」のメンバー10人が招かれました。

同小学校の4年生は残った給食を堆肥に変えて、その堆肥を使って大根を育てて収穫し、最後は食べるという年間を通した取り組みを行っており、「師匠」と子どもたちから呼ばれているプロジェクトのメンバーが協力しています。感謝祭では師匠に感謝を伝えながら、野菜ビンゴ大会や大根クイズ、「大きなカブ」をモチーフにした「大きなダイコン」の劇の発表などが行われました。

ホールでの出し物の後は、大根おでんを試食。子どもたちはあまりのおいしさに、あっという間に食べ終わり、次々とおかわりをしていました。

2月5日

「将来を担う子どもたちの学びのため」
寄付金と書籍を寄贈いただきました

市内在住の西克まさるさんから、市立小中学校の教育備品の充実に活用してほしいと寄付金1,000万円を、この春市立小学校を卒業する6年生783人に書籍「二十一世紀に生きる君たちへ」(司馬遼太郎著)を寄贈いただきました。

西さんは「司馬さんが長編小説一編分のエネルギーを費やし、小学6年生に向けて書かれたもの。小学校卒業を前に読んでもらいたい。また、中学や高校、大学と進んだ時にも本を開き、将来への指針としてもらいたい」と書籍に込めた思いを話しました。

1月21日

ボールひとつで友だちに！
フットサルで国際交流

フットサルが外国籍の人と日本人との架け橋になることを目的にしたイベントが、安土学区の日本語教室、少年サッカークラブ、まちづくり協議会の協力で開催されました。

当日、健康ふれあい公園に集まった外国籍の人たち6人と子どもたち20人は、国籍や世代を超えて3つのチームに分かれ、交代で試合に臨みました。最初緊張していた子どもたちも休憩時間にはベトナム語であいさつしたり、一緒にPK戦をしたりと、笑顔で国際交流を楽しみました。来日2か月目のドアン・テー・ソンさんは、「ベトナムではよくサッカーをしていたが、日本に来てからはできていなかった。久しぶりのサッカーはとても楽しかったし、子どもたちがうまくて驚いた」と笑顔で話していました。